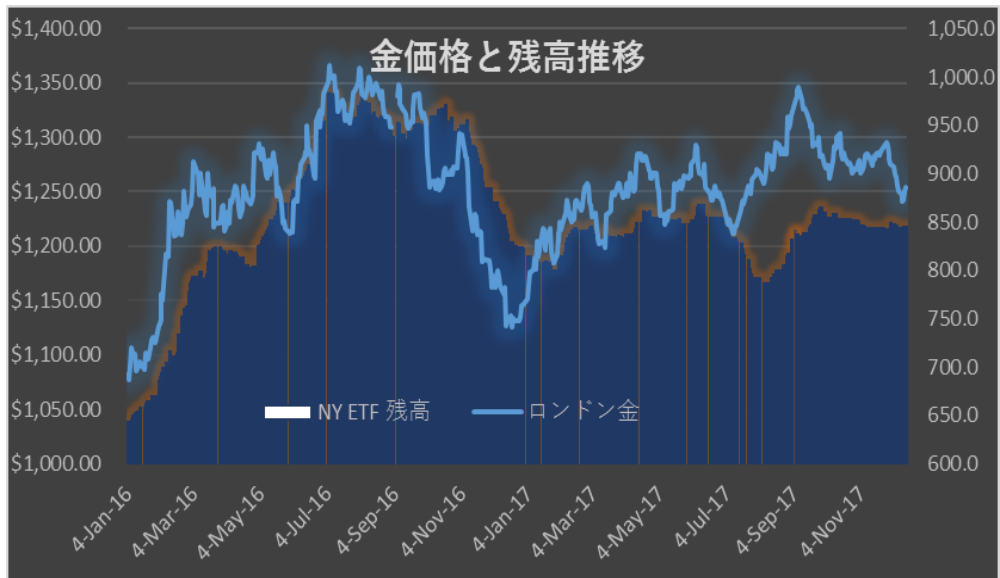


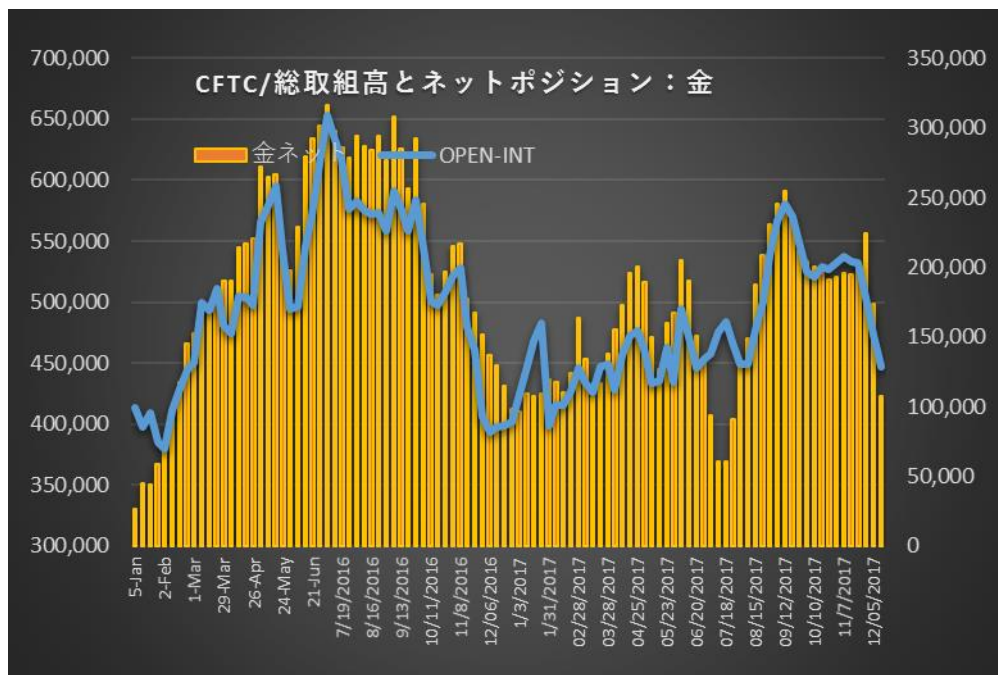
3つの視点

I. CFTC ポジション

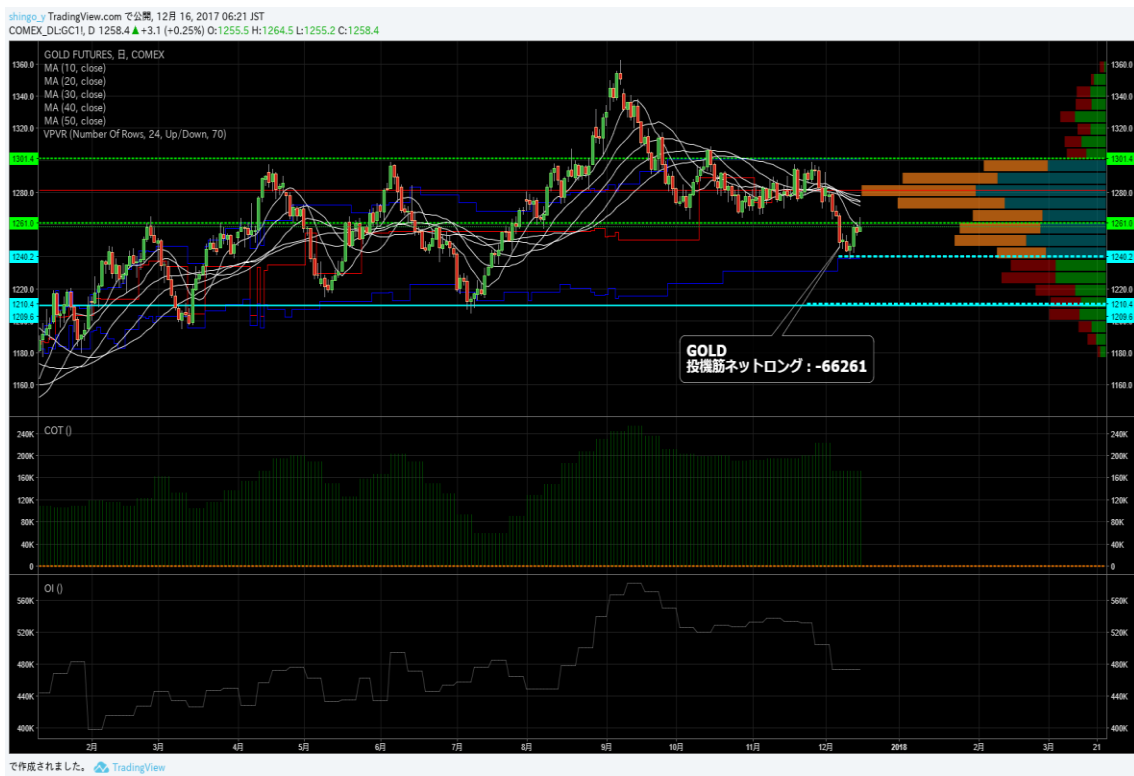
金：「内部の売りからファンダの買いへ」



左軸：金価格（オンス）、右軸：NY ETF 保有高（トン）



グラフ) CFTC/総取組高と大口投機玉のネットポジション



金価格：CFTC リリース週の値動き <https://jp.tradingview.com/x/614MXcrR/>

今週のゴールドは、内部圧力の売りに押され当面のサポートである 1240-1235 台をタッチした後、振るわない米経済指標やハト的な米 FOMC の結果に支えられ、再び 1260 ドル台へ回復しました。

NY 金 ETF を見てみましょう。COT リリース週の残高は前比+1.4 トン、1 週間の変化は、-1.2 トンになっています。

そして CFTC 建玉は、ロング-49322 とショート+16939 でネット・ロングは 107068(-66261) となっています。

前週同様、ゴールドにしては派手な数字の変化となっています。

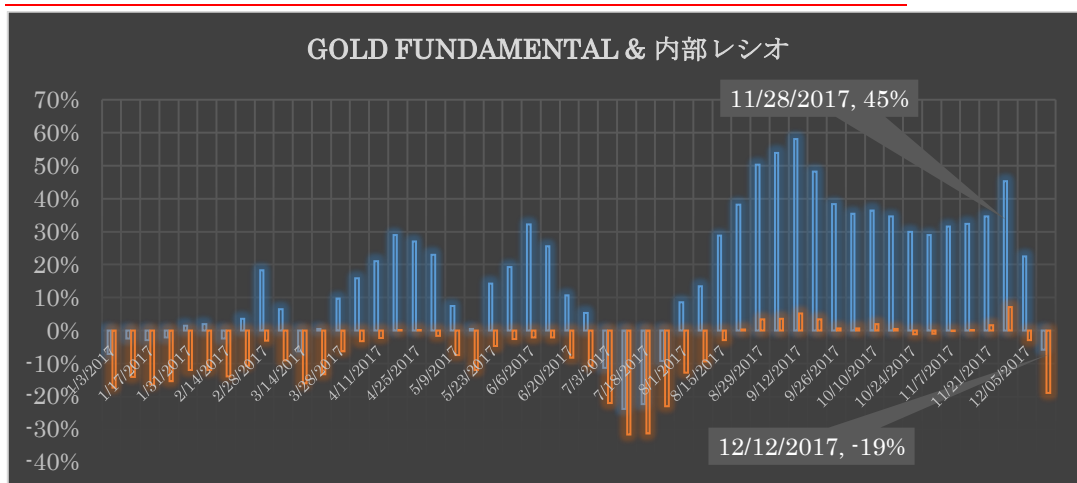
まず、COT レポートなのですが、取組高 (-26177) と投機筋のネットロングが大きく減少 (-66261) しており、1260 ドル台を中央値として買いの手仕舞い+新規売りが行われました。

大口+小口投機家合わせると 7 万枚以上のロング減、そしてトレーダー比率もロングが 38 減となっており、取組高の減少も伴っている事から先週同様「市場そのものからの撤退」に動いた投機筋も多かった様です。

重要なポイントを確認しましょう。

○ファンダと内側の動き

今週の動きに関しては「11/28 付けの COT レポートでは「SELL」」となっていましたが、
僅か 2 週間で過熱感を一掃し、逆に「LONG」のシグナルが発動しました。



(※青/ファンダ：+45%売/0%買、オレンジ/内部：0 売/-25%買)

売りシグナル発動時の平均価格は 1295 ドルのレンジであり、内部要因から変動する振れ幅は 60-80 という事で、ひとまず今週の安値 1235 ドル台でのリバウンドは、違和感の無い調整であったと言えるでしょう。

ポイントとしては、COT レポートの週においては悲観的な数字となりましたが、シグナル単体で見るとファンダメンタルも内部もきっちり（売り圧力を）解消しており、**1235 ドル台**では**短期筋+中期筋の買いが入り易い状況**となっています。

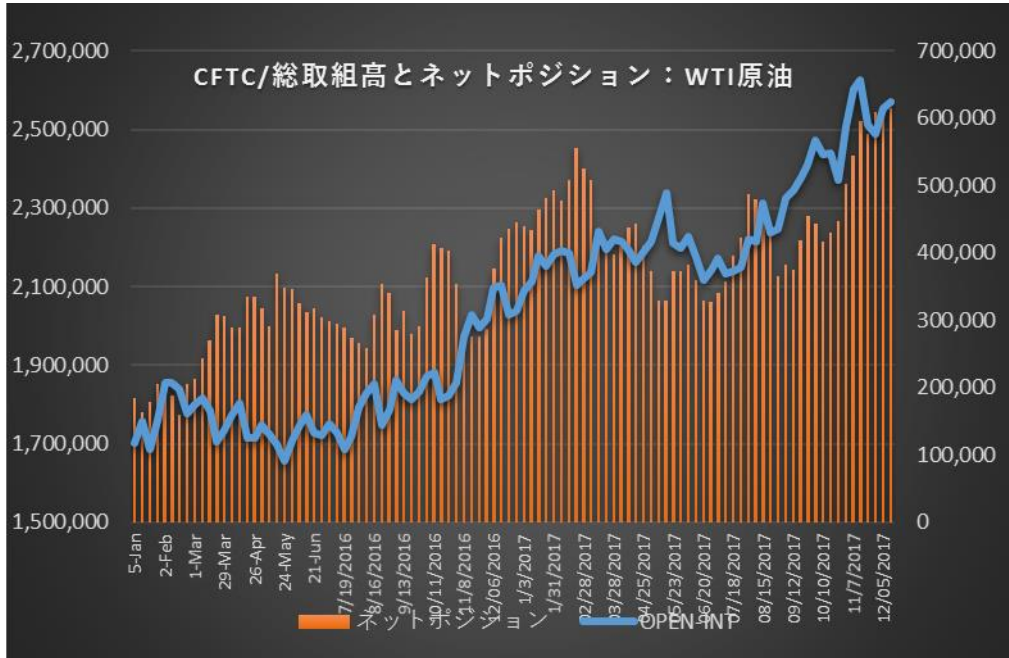
但し、先週火曜日から今週末に掛けての「**取組高**」の変動は**ほぼ皆無**であり、**安値圏イコールで安易な新規ロング**が生まれやすい環境ではない、という事は確認しておきたいと思えます。

現状は、完全なるペーパー資金が 1235-1260 を動かしているため梯子外しには要注意です。

米長期金利が低迷しているためゴールドの先高観は否定しませんが、一方では、足元の金利が上向く以上、気持ちだけゴールドのボトムを切り下げてあげた方が落ち着いたトレードが出来そうです。

原油

「レンジ入り」



上図グラフ) CFTC/総取組高と大口投機玉のネットポジション



WTI 原油：CFTC リリース週の値動き <https://jp.tradingview.com/x/ckvzfc7L/>

今週の WTI 原油は、特別目立った材料も無く、想定トレードレンジ 59-56 ドル内での商いとなりました

COT リリース週のポジションを確認しましょう。CFTC 建玉は、ロング+1143 とショート-2226 でネットロングは 614497 (+3369) となっています。

先週と同様ですね、数字の変化も無く、ミドルレンジでの新規ポジショニングはありません。

今年 9 月以降は、OPEC 減産延長に絡んだ思惑で荒れたマーケットが続いたため、取り敢えず、**年末に掛けては「レンジ相場」がクリスマスプレゼントの代わりになる**のではないのでしょうか。

散々傷を負った投機筋もいるでしょう。

彼らにとっては、トレンド云々でガッツリ稼ぐより、レンジで安定的に稼ぐ方が心労も減り、我が家で食事をしているイメージになるため、暮れまでは、つかの間の幸せを味わっているのではないのでしょうか。

余談ですが、私もロスで“やらかした時”は、レンジ相場を虎視眈々と狙い、コツコツと積み重ねる事で帳尻を合わせていた（±ゼロにする）事がよくありました。

例えば、正に今の原油相場の様に、プロであっても長くトレードしていると「おかしい」と思いつつもショート戦略から抜け出せないメンタルになる時があります。

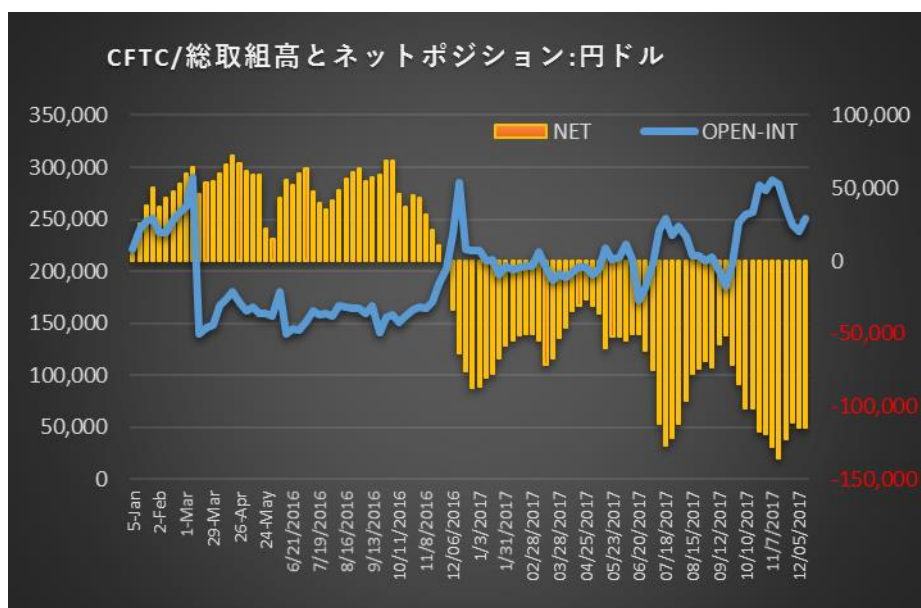
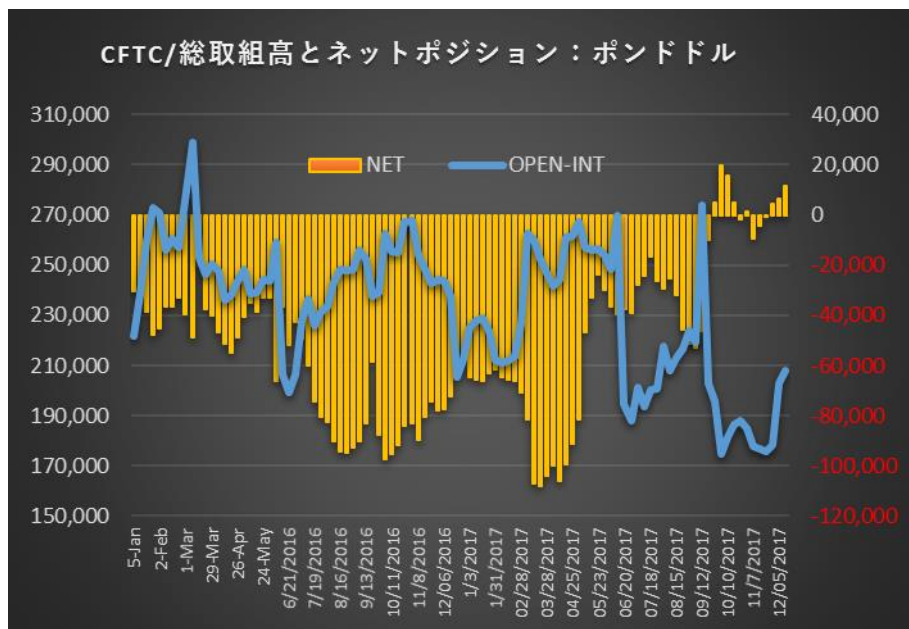
ただ、ヤラレ（損失）は、遅かれ早かれ、プロでも素人でも経験するもので、その後の対処が大きく異なるのでしょうか。

そのため、今回、11 月以降の原油相場のボックス入りは、一部投機筋にとって恵みの雨になったかと思われます。

需給バランスもフラット、外部要因もフラット、内部もフラット(若干ロングの吐き出しは必要)
という事で、まるい一週間です。

休むも相場。

為替：「本丸 CME の始動」

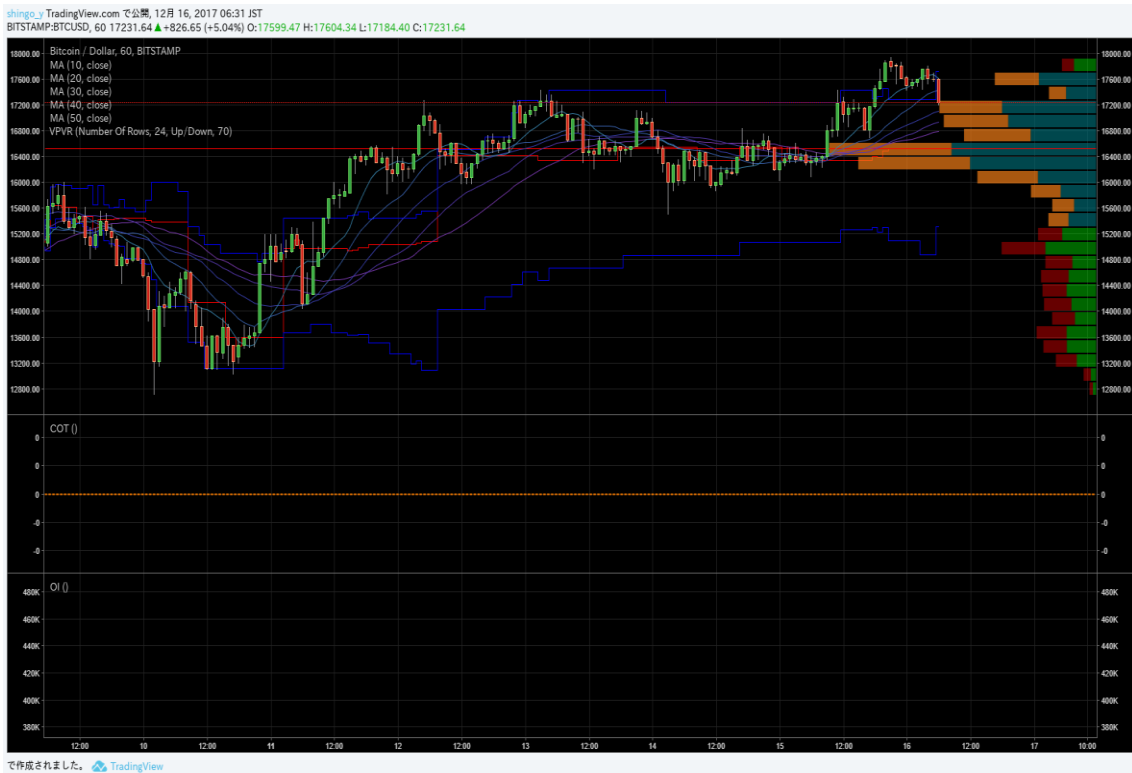


グラフ) CFTC/総取組高と大口投機玉のネットポジション



<https://jp.tradingview.com/x/GQtbouhl/> <https://jp.tradingview.com/x/ZbVaDhvN/>

ポンドと円 : CFTC リリース週の値動き



EURUSD/BTCUSD

<https://jp.tradingview.com/x/MoFl2fiw/> <https://jp.tradingview.com/x/zRwEEJLH/>

今週の為替市場は、師走相場ど真ん中と言う事で、それぞれの市場毎で、内部（ポジションや政局）と外部（米法案成立）をバランスする動きとなりました。

また、ビットコイン先物は出来高共に堅調に推移しています。

COT レポートを見てみましょう。

ポンド CFTC 建玉は、ロング+82611 とショート+71223 でネットロング 11388 (+4982)「※先週は数字をご入力していました」となり、円の建玉は、ロング-3019 とショート-3163 でネットショートは 114123 (+144) になりました。

ユーロドルは、ロング+627 とショート-20156 でネットロングは 113889 (+20783) となっています。

上記主要通貨の中で目立ったポジション動向は、ユーロの投機筋ネットロングが 10 万台に達しており、1.170 付近のサポートを意識した売り方の買戻しという事で、**当面の支持線が確認された格好となっています。**

年内をレンジで終えたいのはどこのマーケットも同じですね。

ドル円も同様にポジションの動きはゼロとなっていますが、**内外（建玉と米長期金利）の鈍い動きがズシリと重く押し掛かっています。**

税制改革法案の成立の後押しを期待したプレーヤーも多いですが、総じて利上げは緩やかになるという見方においては、景気よくドルを買い上げていくには少々及び腰になる投機家も多い様です。

勿論、嫌でも段階的に切り上がる傾向には変わりないのでしょうか。

次週から、CME のビットコイン先物が始動しますね。

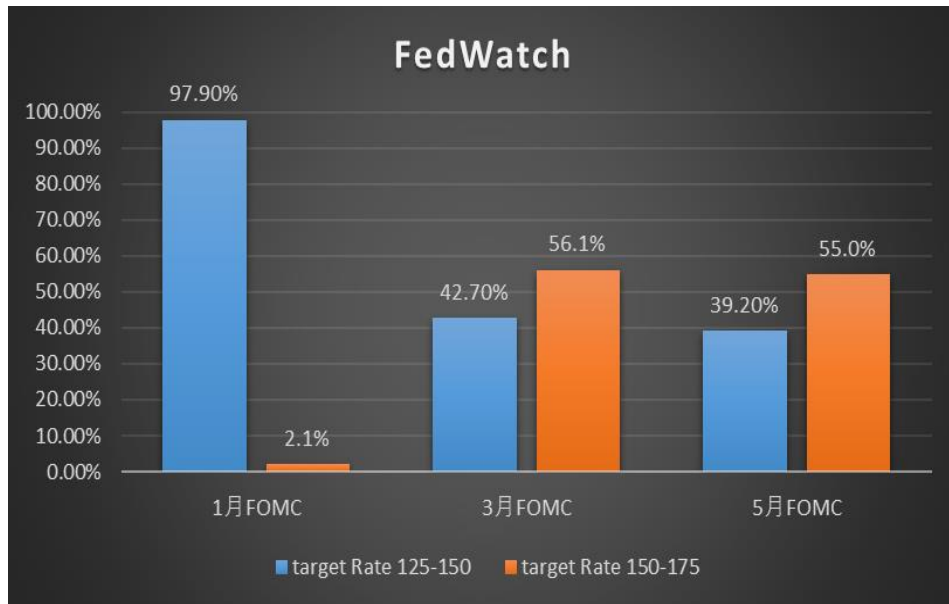
CBOE が予想よりも無難な船出となった事から、本丸のスタートは嫌でも注目が集まります。

最近ではブローカーや機関投資家と情報交換をする事が多いのですが、後者が近い将来マーケットに参入する事となれば、別次元の多様性と平準化がもたらされます。

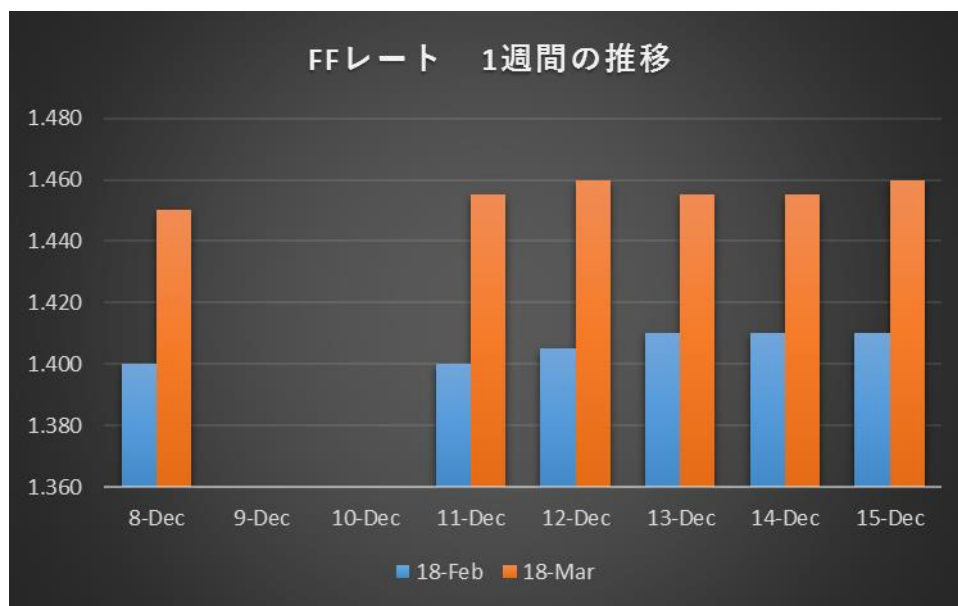
期待しましょう。

金利動向

「議長、お疲れ様」



次回 FOMC の政策金利予想



※ F F 金利先物 一週間の推移 (左から右へ)

12月の米FOMCでは、「予定通りの利上げ」と「予想外の利上げ予想（据え置き）」という少し期待外れな結果を受け、米長期金利は低下し長短イールドもフラット化の傾向にあります。

FOMC当日は、民主党候補のジョーンズ氏が勝利—米CPIコアが予想を下回り—2018年3回の利上げ予想（据え置き）でドル売り（金利低下）三連発の展開となり、米長期金利は週末金曜日時点で安定の2.35となっています。

とにかく現状は2.35が好きですね。

さて、イエレンさんはFRB議長として最後の記者会見となりましたが、一期での退任になるものの、常に世界中から注目され、記者会見では発言の細部まで突かれ、これまで重責を果たしてきました。最後の会見ではこれまでとは少し異なり、笑いが出た一面もあったとの事で、今後は重責から解放され、別の角度からの発言を楽しみにしたいと思います。

今後のパウエルさんの手腕が注目されますが、**来年のFRBは若干タカ派的な顔ぶれになりそう**でもあるため、今後の人事も含め新議長の舵取りに期待したいですね。

さて、マーケットは年度内の法案成立を飲み込んだ状態で株式が堅調に推移していますが、利上げシナリオが若干ハト的であるため、ドル/長期金利が抑えられやすい状況となっています。

少しの間ですが、ドルは安値で拾われポジティブなニュースで手仕舞いされる。このパターンが続きそうですね。

—このレポートに関しまして—

当レポートの著作権はすべてバーグインベスト株式会社（Burginvest Co.,Ltd.）に帰属し、「トレーディング・カレッジ」外への転載および無断引用は固くお断り致します。

また当レポートは、会員個人のみが閲覧いただけ、法人内・コミュニティ外での回覧・シェアは固くお断りしております。（後日、回覧人数分の料金を申し受けます）。無断の転載などを見つけた場合、著作権者までご連絡ください。

また、このレポートは、市場の研究とその情報の提供を目的としたものです。投資方針や時期選択等の最終判断はご自身で判断されま
すようお願いいたします。なお、本サービスにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、バーグインベスト株式会社は一切
の責任を負いかねますことをご了承願います。

ご理解をいただきまして、ありがとうございます。